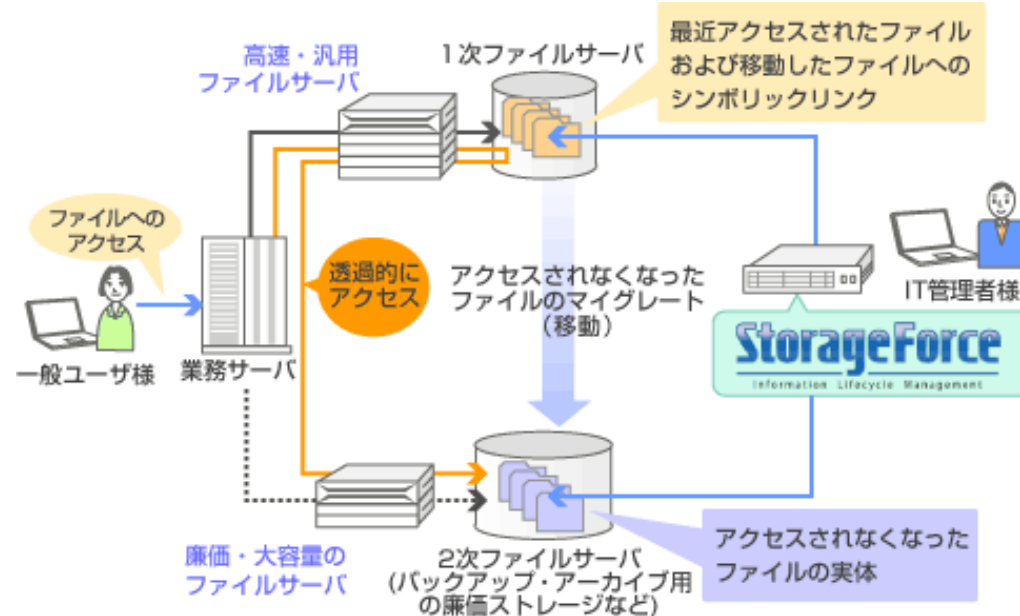


StorageForce 環境負荷評価モデル

StorageForceは、高速・汎用ファイルサーバ(1次ファイルサーバ)にあるファイルを、設定されたポリシーに基づき、廉価・大容量のファイルサーバ(2次ファイルサーバ)へ移動(マイグレーション)します。

利用頻度の高いファイルのアクセス性能を維持し、かつ、利用者からの接続形態を維持したまま、ストレージコストなどを低減することができます。



StorageForce 動作環境：

RedHat Enterprise Linux 5(x86)

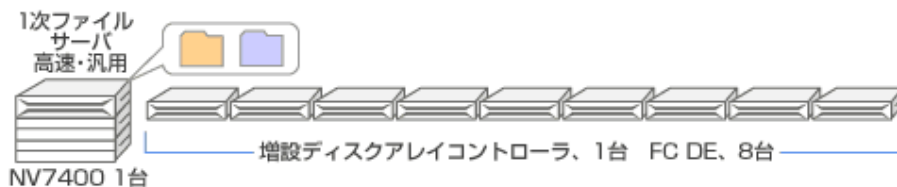
SUSE Linux Enterprise Server 10(x86_64)

StorageForce 環境負荷評価モデル

ISP事業者様やデータハウス事業者様などの企業のコンピューティング環境において、飛躍的に増え続けるファイルやデータをいかに低コストで長期保存すべきかの課題を解決します。

システム導入前

高いI/O性能を要求 (RAID10構成) 24時間フル稼働



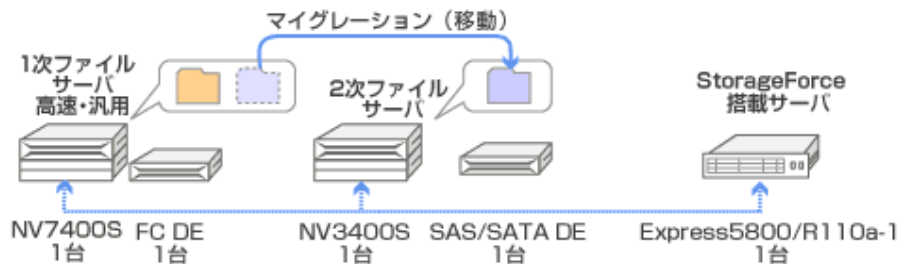
📁 : アクセス頻度が高い重要なファイル 📁 : 時間の経過とともにアクセスされなくなったファイル

- 「アクセス頻度が高い重要なファイル」と「時間の経過とともにアクセスされなくなったファイル」が混在
- データの増加に伴い、常に高性能ストレージの拡張を必要とし、ストレージコストが増加



システム導入後

1次側は高いI/O性能を要求 (RAID10構成) 24時間フル稼働
マイグレーション可能な割合 80%



- 「時間の経過とともにアクセスされなくなったファイル」を適切な性能、コストのサーバへ移動
- ディスク格納効率が向上し、ストレージコストおよび消費電力を削減

StorageForce 環境負荷評価結果

StorageForceの導入により、消費電力が減少しCO2排出量を約51%削減

